

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	土偶のマスコットキャラクター制作活用事業
事業主体 (連絡先)	たつの芸術村事業実行委員会 辰野町樋口 2407-1 辰野美術館内
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	988,200円 (うち支援金: 657,000円)

事業内容

80年以上前に辰野町内で発見された縄文時代の仮面土偶(長野県宝)は、長く辰野美術館で展示公開してきたが、土偶に関心が集まる昨今、この土偶をモチーフに様々な普及啓発活動を実施し、学術的な理解とともに、広く親しまれるものとして事業を展開してきた。

一昨年からの愛称とキャラデザインの募集、決定に続き、キャラクターの製作と活用に取り組んだ。

仮面土偶のキャラデザインをモチーフにして着ぐるみ(マスコットキャラクター)を製作した。レプリカと合わせて、辰野美術館のひな人形展など各イベントをはじめ、町内の保育園、県立歴史館土偶展などに出張し、幅広く親しまれる機会を提供した。

事業効果

既存のレプリカや「縄文服」と合わせた着ぐるみによる演出により、縄文時代と今日の社会とを親しみを持って対比的に考える機会として、幅広い世代にアピールすることができた。

また、当時の出産の姿を示す土偶の理解を通して、少子化時代の子育てを考える意識の啓発につながり、辰野町母子手帳アプリ「ほっこりナビ」のデザインに採用され、若年家庭層の関心を高めた。

今後の取り組み

少子化と人口減少が続く時代に、土偶の守り神を作った縄文時代の人々の暮らしや信仰を参照しながら、親しみやすい着ぐるみの活用をとおして、次世代地域社会像を探る様々な活動にチャレンジして行きたい。

- ・着ぐるみを使用した様々なアウトリーチ活動
- ・土偶の学術的な研修機会の提供
- ・土偶や土器の表現に注目した造形活動の機会提供

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【保育園で子供たちに囲まれ

【目標・ねらい】

- ① 広く親しまれる着ぐるみ製作
- ② 幅広い世代へのアピール
- ③
- ④

※自己評価【 B 】

【理由】

キャラデザインを反映した親しみやすい着ぐるみを製作することができた。

完成後の活用は幅広い世代から注目され、出演依頼も多かった。